



力覚等を用いた疑似体験による木材加工技能の獲得

教育学部 教授 橋爪 一治

わたしの研究は、専門教育機関において「誰もが、一定期間に巧緻な木材加工技能を確実に身につける」ため、学習者に「巧緻な技を自身が行っている仮想体験」をさせる指導法の開発を目指しています。現在、宮大工などの後継者や従事者不足が深刻です。職人の養成は、経験と勤をたよりに膨大な時間をかけ行われるのが通常でした。この養成法は現代の若者にとって受け入れ難く、新規就労者は減少傾向の一途を辿っています。そこで、工業高校等の専門教育機関における効率的な技能者養成が必要になります。本研究の目的を達成するため、日本の伝統的な木造建築技術等を支えてきた一流の職人の巧緻技能の感覚（視覚や力覚、触覚等）を360度映像や力覚デバイス等で記録します。これを学習者の作業時に再現・提供し、学習者に、あたかも自分自身が熟練者に成り代わって熟練の技を振るっているかのような体験をさせることで、得られるはずのない巧緻技能の感覚を身につける方法の完成を目指しています。



疑似体験によるこぎり引き訓練